

平成26年度の
生乳及び牛乳乳製品の需給見通しと
当面する課題について

平成26年10月22日
一般社団法人Jミルク

1. 地域別生乳生産量の動向

【生乳生産量予測の前提】

・北海道及び都府県の予測値は、平成 26 年 8 月までの生乳生産量データに基づき、気温や乳牛頭数等を説明変数とした予測モデル (ARIMA モデル) による推計値を基本に算出。なお、平成 26 年度の気温は、平年並で設定。

表 1：平成 26 年度の地域別生乳生産量（見通し）

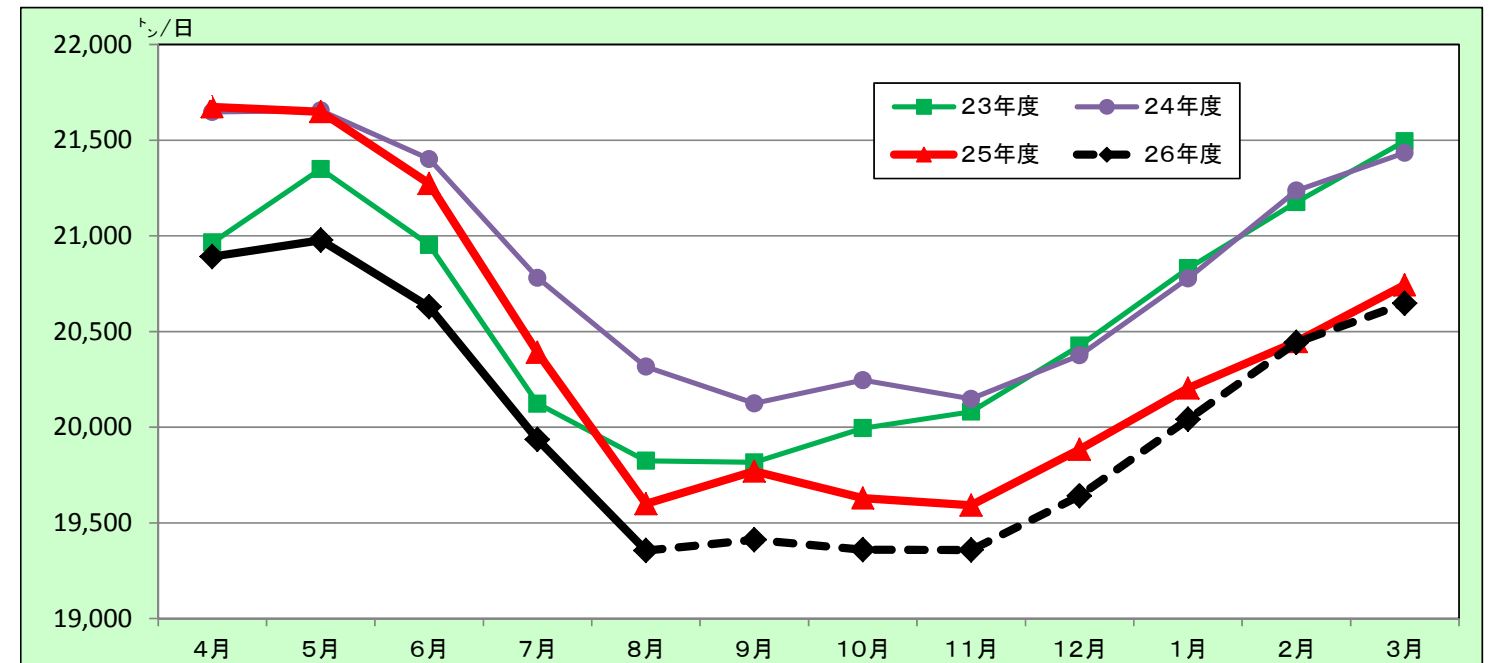
	全 国		北海道		都府県	
		前年比		前年比		前年比
4 月	627	96.4%	316	96.0%	311	96.8%
5 月	650	96.9%	333	97.1%	317	96.7%
6 月	619	97.0%	324	97.4%	295	96.5%
7 月	618	97.8%	329	98.9%	289	96.6%
8 月	600	98.8%	320	99.6%	280	97.8%
9 月	582	98.2%	307	98.9%	275	97.4%
10 月	600	98.6%	313	99.1%	287	98.2%
11 月	581	98.8%	301	99.2%	280	98.4%
12 月	609	98.8%	316	99.1%	293	98.4%
1 月	621	99.2%	322	99.9%	299	98.4%
2 月	572	100.0%	295	100.5%	278	99.4%
3 月	640	99.5%	326	100.2%	314	98.9%
第 1 四半期	1,896	96.8%	973	96.9%	923	96.6%
第 2 四半期	1,800	98.2%	956	99.1%	844	97.3%
第 3 四半期	1,790	98.7%	930	99.1%	859	98.3%
第 4 四半期	1,834	99.6%	943	100.2%	891	98.9%
上期	3,696	97.5%	1,929	98.0%	1,767	96.9%
下期	3,623	99.1%	1,873	99.7%	1,750	98.6%
年度計	7,320	98.3%	3,802	98.8%	3,518	97.8%

【生乳生産量の見通し】

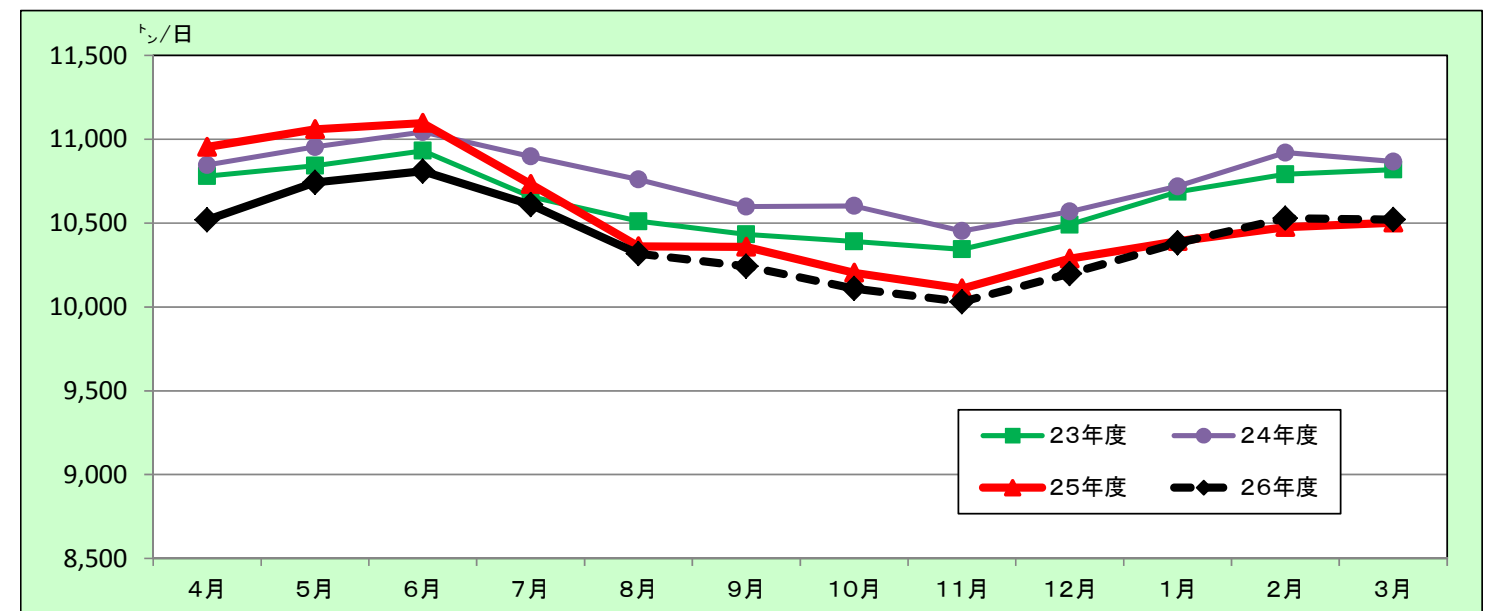
直近 8 月までの生乳生産量は、北海道では昨年 7 月以降続く前年割れが一巡したこともあり、7～8 月の減少幅が縮小して推移している。都府県では前年度を下回る基調が続いている。

今後は、全国的に、分娩予定頭数が 12～1 月頃には前年並みへと回復することが見込まれるものの、生産の主力となる 2～4 歳の飼養頭数が前年度を下回って推移していることなどから、生乳生産量は前年度を下回って推移することが見込まれ、26 年度通期では、北海道については上期が前年比 98.0%、下期が同 99.7%、年度計が同 98.8%、都府県については上期が同 96.9%、下期が同 98.6%、年度計が同 97.8%と見込まれる。

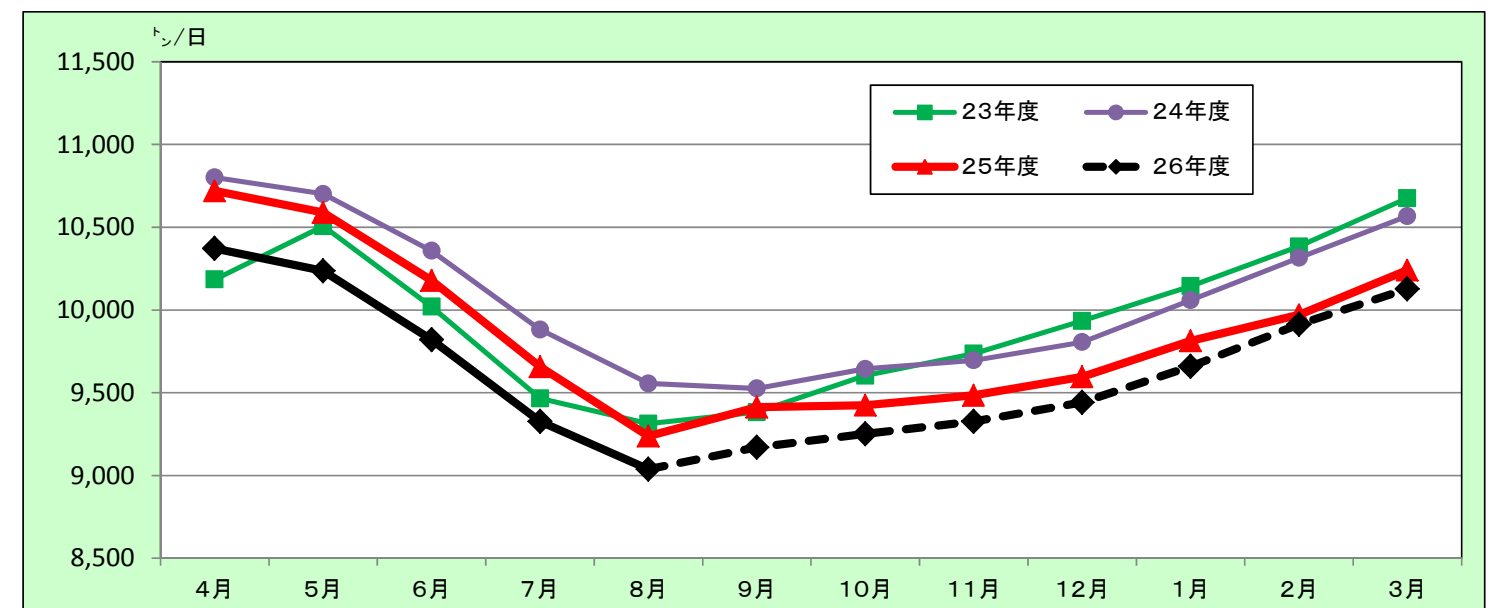
グラフ 1-1：全国の生産量（日均量）



グラフ 1-2：北海道の生産量（日均量）



グラフ 1-3：都府県の生産量（日均量）



2. 牛乳等生産量の動向

【牛乳等生産量予測の前提】

・各々の予測値は、平成26年8月までの生産量データに基づき、気温や平日日数等を説明変数とした予測モデル（ARIMAモデル）による推計値を基本に算出。なお、平成26年度の気温は、平年並で設定。

表2：平成26年度の牛乳等生産量（見通し）

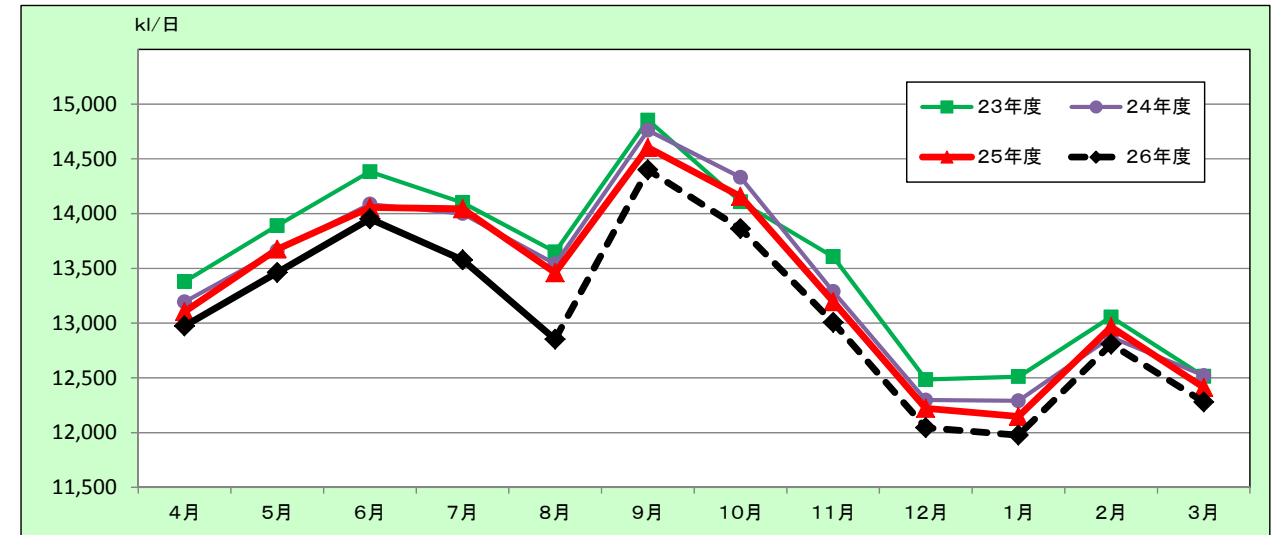
	牛乳類		牛乳		加工乳		成分調整牛乳		乳飲料		はっ酵乳	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	
4月	389	99.0%	243	98.9%	10	92.4%	28	101.3%	108	99.4%	87	96.9%
5月	417	98.4%	261	98.4%	10	97.4%	30	101.1%	117	97.9%	90	99.2%
6月	419	99.3%	263	100.3%	9	95.1%	30	102.2%	116	96.7%	87	99.4%
7月	421	96.7%	253	96.1%	10	93.0%	32	101.8%	126	96.9%	87	98.9%
8月	398	95.5%	235	96.1%	10	95.7%	31	98.3%	122	93.6%	82	96.8%
9月	432	98.6%	268	98.5%	10	98.0%	30	98.0%	124	99.1%	82	98.3%
10月	430	97.9%	267	98.1%	10	91.2%	31	99.8%	122	97.6%	84	99.6%
11月	390	98.6%	247	98.4%	9	83.8%	28	100.9%	105	99.9%	77	98.8%
12月	373	98.6%	235	98.6%	9	78.0%	28	101.9%	101	100.0%	75	100.3%
1月	371	98.6%	235	98.4%	9	79.9%	27	99.7%	100	100.7%	78	99.3%
2月	359	98.8%	230	98.7%	8	83.8%	26	100.8%	94	99.9%	78	98.5%
3月	381	98.9%	237	99.0%	9	84.2%	28	98.8%	107	100.3%	88	100.4%
第1四半期	1,225	98.9%	767	99.2%	30	94.9%	88	101.6%	341	97.9%	264	98.5%
第2四半期	1,251	96.9%	756	96.9%	30	95.6%	92	99.4%	373	96.5%	251	98.0%
第3四半期	1,193	98.3%	750	98.4%	29	84.1%	87	100.8%	328	99.0%	235	99.5%
第4四半期	1,111	98.8%	702	98.7%	26	82.6%	81	99.7%	301	100.3%	244	99.4%
上期	2,477	97.9%	1,523	98.1%	60	95.2%	180	100.4%	714	97.2%	515	98.3%
下期	2,304	98.5%	1,452	98.5%	55	83.4%	169	100.3%	629	99.7%	479	99.5%
年度計	4,780	98.2%	2,975	98.3%	114	89.2%	349	100.4%	1,343	98.3%	994	98.9%

【牛乳等生産量の見通し】

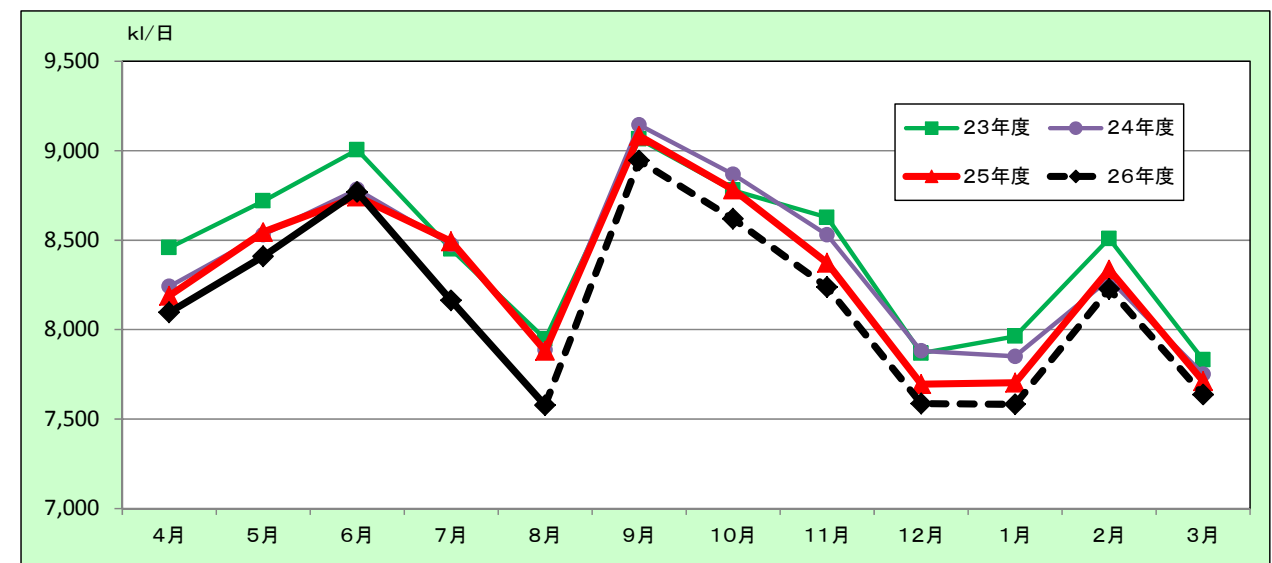
直近8月までの牛乳等生産量は、7～8月に都府県を中心とした降雨日数が多いなどの天候不順による影響によって、「牛乳」は減少幅が拡大して推移、「加工乳」「乳飲料」も前年度を下回って推移している。また「はっ酵乳」は、比較的堅調ながら前年までの増産基調の反動もあり、前年度をやや下回って推移している。一方、「成分調整牛乳」は前年上期減少の反動もあり、前年度をやや上回って推移している。

26年度通期では、今夏に減少傾向が見られたものの、「牛乳類」については上期が前年比97.9%、下期が同98.5%、年度計が同98.2%、「はっ酵乳」については上期が同98.3%、下期が同99.5%、年度計が同98.9%と見込まれる。

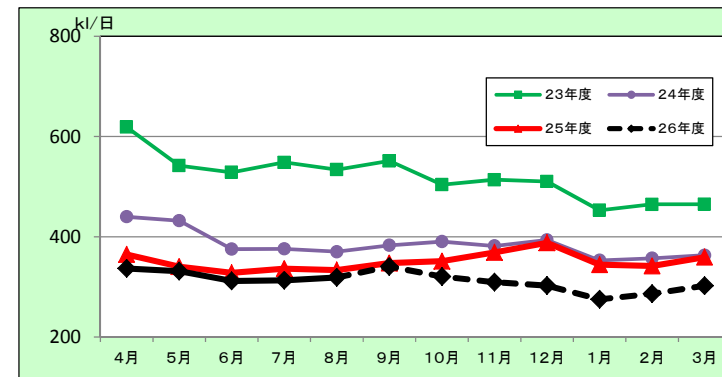
グラフ2-1：牛乳類（牛乳・加工乳・成分調整牛乳・乳飲料）の生産量（日均量）



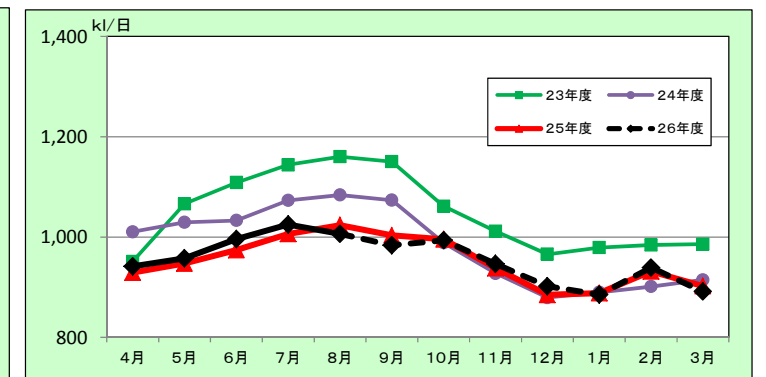
グラフ2-2：牛乳の生産量（日均量）



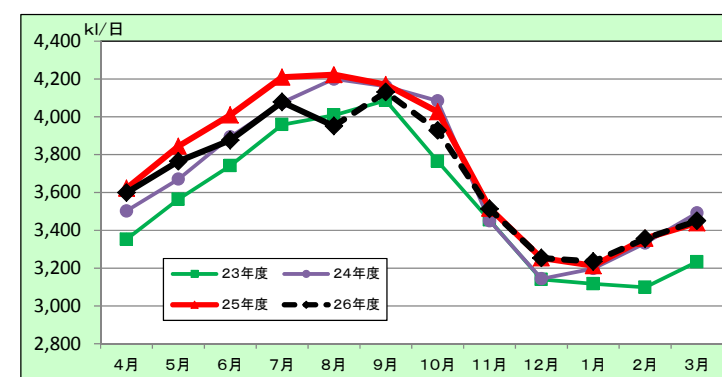
グラフ2-3：加工乳の生産量（日均量）



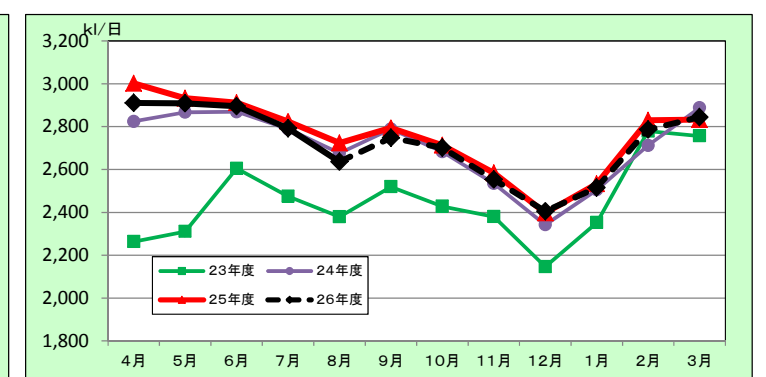
グラフ2-4：成分調整牛乳の生産量（日均量）



グラフ2-5：乳飲料の生産量（日均量）



グラフ2-6：はっ酵乳の生産量（日均量）



3. 用途別処理量の動向

【用途別処理量予測の前提】

- ・生乳供給量は、生乳生産量から自家消費量を差し引いて算出(自家消費量は、各地域の直近までの動向を踏まえ設定)。
- ・牛乳等向処理量は、牛乳、加工乳、成分調整牛乳、乳飲料、はっ酵乳の予測生産量を基に、生乳使用係数を乗じ算出。
- ・乳製品向処理量は、生乳供給量と牛乳等向処理量の差。

表3：平成26年度の生乳供給量及び用途別処理量（見通し）

(千トン)

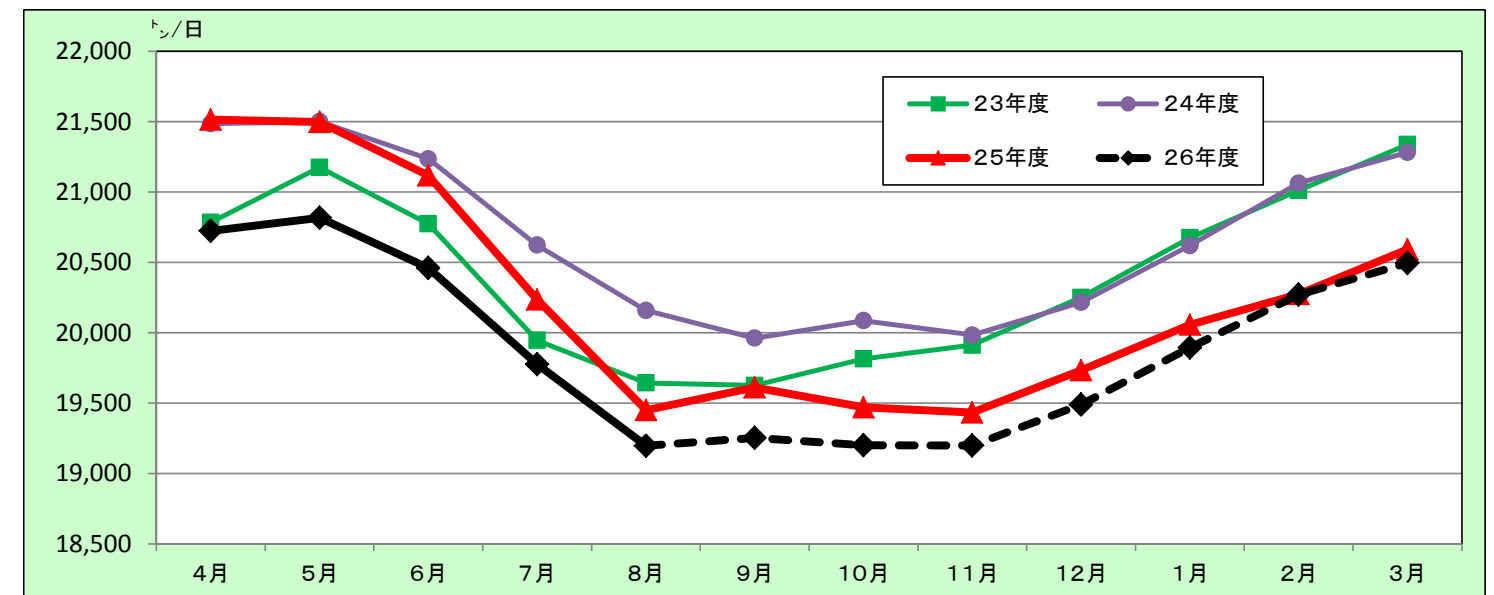
	生乳生産量		自家消費量		生乳供給量		牛乳等向		乳製品向	
		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比
4月	627	96.4%	5	106.3%	622	96.3%	319	98.4%	303	94.2%
5月	650	96.9%	5	106.5%	645	96.8%	342	98.8%	303	94.7%
6月	619	97.0%	5	106.8%	614	96.9%	345	99.6%	269	93.6%
7月	618	97.8%	5	103.3%	613	97.7%	337	96.4%	276	99.4%
8月	600	98.8%	5	105.5%	595	98.7%	317	96.2%	278	101.6%
9月	582	98.2%	5	100.0%	578	98.2%	348	98.5%	230	97.7%
10月	600	98.6%	5	100.0%	595	98.6%	344	98.3%	251	99.1%
11月	581	98.8%	5	100.0%	576	98.8%	321	98.6%	255	99.0%
12月	609	98.8%	5	100.0%	604	98.8%	304	98.9%	300	98.6%
1月	621	99.2%	5	100.0%	617	99.2%	310	98.6%	307	99.8%
2月	572	100.0%	5	100.0%	568	100.0%	299	98.9%	268	101.3%
3月	640	99.5%	5	100.0%	635	99.5%	313	99.1%	322	100.0%
第1四半期	1,896	96.8%	15	106.5%	1,881	96.7%	1,006	99.0%	875	94.2%
第2四半期	1,800	98.2%	15	102.9%	1,786	98.2%	1,002	97.1%	784	99.7%
第3四半期	1,790	98.7%	14	100.0%	1,775	98.7%	969	98.6%	806	98.9%
第4四半期	1,834	99.6%	14	100.0%	1,820	99.6%	922	98.8%	898	100.3%
上期	3,696	97.5%	30	104.7%	3,667	97.4%	2,008	98.0%	1,659	96.7%
下期	3,623	99.1%	29	100.0%	3,595	99.1%	1,891	98.7%	1,704	99.6%
年度計	7,320	98.3%	58	102.4%	7,262	98.3%	3,899	98.3%	3,363	98.2%

【用途別処理量の見通し】

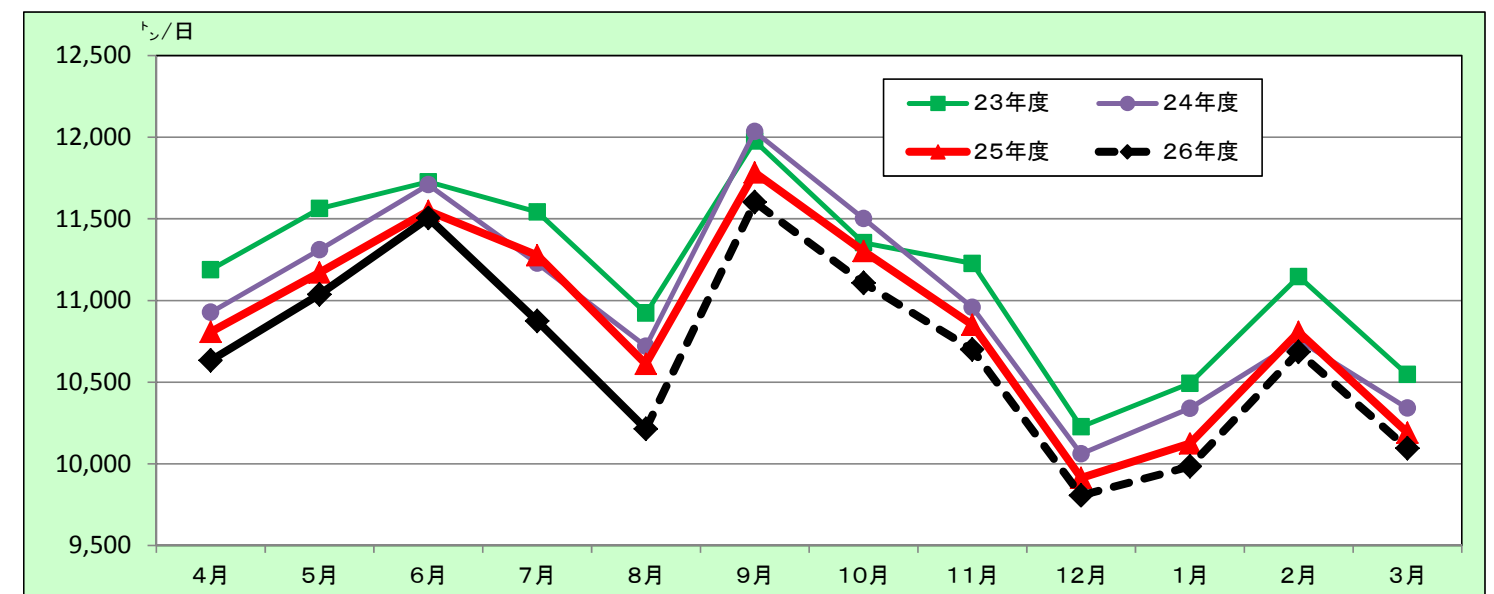
直近8月までの実績は、生乳供給量が前年度を下回って推移したことから、乳製品向処理量も前年度を下回って推移しているものの、7～8月は牛乳等向処理量の減少幅が拡大したことにより乳製品向処理量は前年並みとなった。

26年度通期では、生乳供給量については上期が前年比97.4%、下期が同99.1%、年度計が同98.3%、牛乳等向処理量については上期が同98.0%、下期が同98.7%、年度計が同98.3%、その結果、乳製品向処理量については上期が同96.7%、下期が同99.6%、年度計が同98.2%と見込まれる。

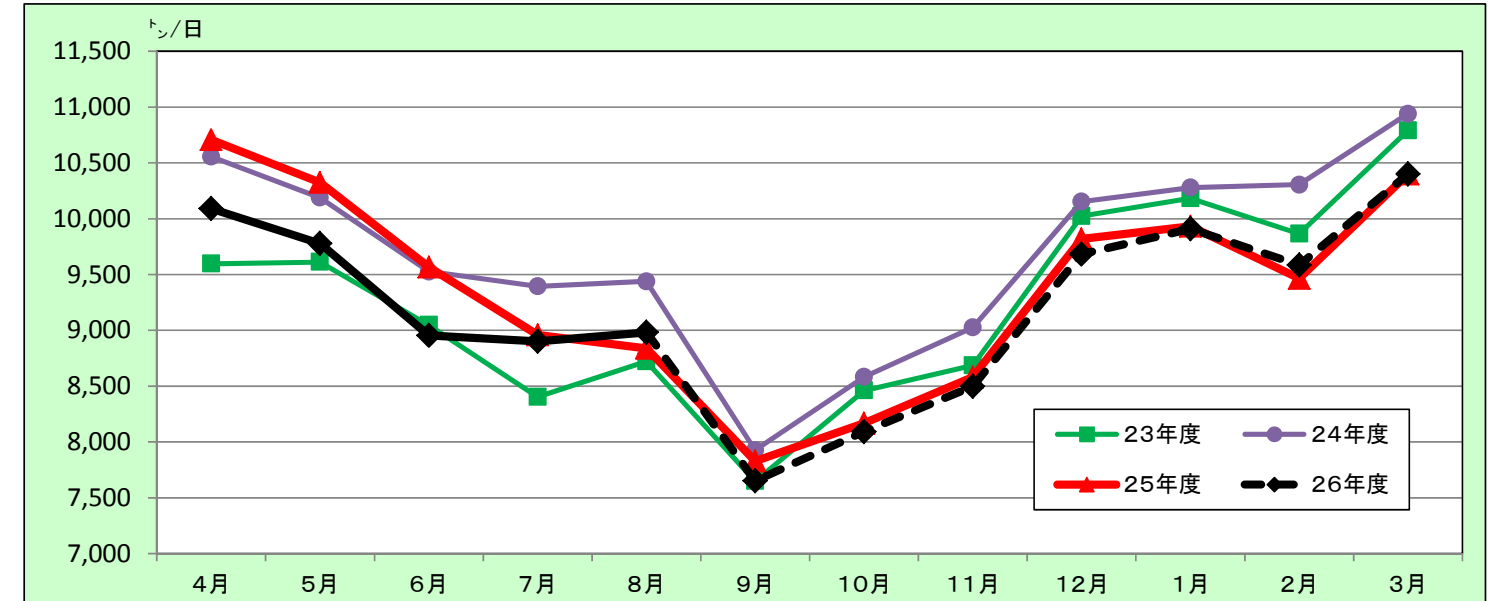
グラフ3-1：生乳供給量（日均量）



グラフ3-2：牛乳等向生乳処理量（日均量）



グラフ3-3：乳製品等向生乳処理量（日均量）



4. 都府県の生乳需給の動向

【都府県生乳需給予測の前提】

- ・「移入量(道外移出量)」は、都府県不足量の補完と、北海道ブランド牛乳製造のための必要乳量等を基本に算出。
- ・「特定乳製品(脱脂粉乳・バター等)向処理量」は、「過不足(A-B-C)」+「移入量」-「移出量」で算出し、過去5年間の最低数量や直近の需給状況等を加味して算出。

表4：平成26年度の都府県の生乳需給（見通し）

	生乳供給量		牛乳等向処理量		その他乳製品向処理量		過不足 A-B-C	移入量 (道外移出量)		移出量	特定乳製品向処理量	
	A	前年比	B	前年比	C	前年比		前年比	前年比			
4月	309	96.7%	275	97.9%	14	102.0%	20	19	98.1%	0	38	87.8%
5月	315	96.6%	297	98.3%	14	102.1%	4	22	102.2%	0	26	81.8%
6月	292	96.5%	300	99.1%	13	96.4%	-20	33	112.7%	1	12	73.2%
7月	287	96.5%	289	95.6%	14	108.9%	-17	34	99.0%		17	110.2%
8月	278	97.8%	270	95.5%	16	113.3%	-8	29	91.0%		21	109.4%
9月	273	97.4%	300	97.8%	13	100.0%	-41	45	95.2%		5	64.6%
10月	284	98.1%	297	97.7%	14	100.0%	-27	37	95.6%		10	100.0%
11月	277	98.3%	276	98.1%	15	100.0%	-13	26	96.7%		13	97.4%
12月	290	98.4%	261	98.3%	16	100.0%	14	21	102.5%		34	100.8%
1月	297	98.4%	267	98.2%	14	100.0%	16	20	105.2%	0	37	105.3%
2月	275	99.4%	258	98.5%	12	100.0%	5	19	96.5%		24	107.6%
3月	312	98.9%	268	98.6%	15	100.0%	28	18	105.1%		46	102.6%
第1四半期	916	96.6%	871	98.4%	40	100.2%	4	73	105.5%	1	76	83.2%
第2四半期	837	97.2%	860	96.3%	43	107.5%	-66	108	95.2%		42	101.6%
第3四半期	852	98.3%	834	98.0%	45	100.0%	-27	84	97.5%		57	99.9%
第4四半期	884	98.9%	793	98.4%	42	100.0%	49	57	102.1%	0	107	104.6%
上期	1,753	96.9%	1,731	97.4%	84	103.8%	-61	181	99.1%	1	118	88.9%
下期	1,737	98.6%	1,627	98.2%	87	100.0%	23	141	99.4%	0	164	102.9%
年度計	3,490	97.7%	3,358	97.8%	170	101.8%	-39	322	99.2%	1	282	96.5%

【都府県の生乳需給の見通し】

都府県の生乳需給は、今後も、生乳供給量及び牛乳等向処理量のいずれも前年度を下回って推移すると見込まれる。また、北海道から都府県への生乳移入量（道外移出量）は、5～6月には前年度を上回ったものの、年度計では前年度を下回る水準で推移するものと見込まれる。

26年度通期では、特定乳製品向処理量は、今後は前年並みに推移すると見込まれるものの、学乳休止期の飲用不要期においては、牛乳等向処理量が生乳供給量以上に減少すれば、前年度を上回る水準となることも見込まれる。

5. 特定乳製品需給の動向

【特定乳製品(脱脂粉乳・バター等)需給予測の前提】

- ・脱脂粉乳・バターの生産量は、特定乳製品向処理見込数量に製造係数(直近の動向等を反映)を乗じて算出。
- ・脱脂粉乳・バターの出回り量は、平成26年8月までの消費量データに基づき、代替乳製品の動向等を説明変数とした予測モデル(ARIMAモデル)による推計値を基本に算出。
- ・脱脂粉乳・バターの当月出回り量は、「前月末在庫」+「生産量」+「輸入売渡し」-「当月末在庫」で算出。
- ・脱脂粉乳・バターの在庫月数は、前年度の一ヶ月平均消費量をもとに算出。

表5：平成26年度の脱脂粉乳の需給（見通し）

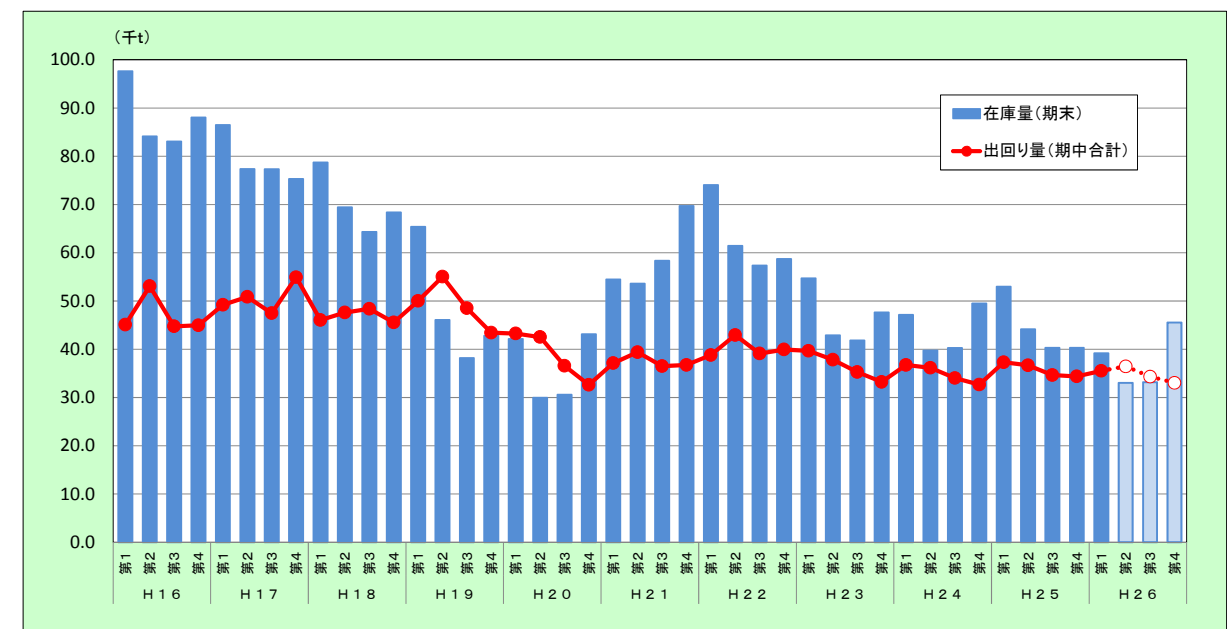
	生産量		輸入 売渡し B	出回り量		過不足 A+B-C	月末在庫量		
	A	前年比		C	前年比		月数	前年比	
4月	11.4	82.8%	0.1	11.9	97.6%	-0.4	39.9	3.3	78.2%
5月	10.9	83.7%	1.6	12.7	90.9%	-0.1	39.8	3.3	74.9%
6月	8.9	83.0%	1.3	10.9	98.0%	-0.6	39.2	3.3	73.9%
7月	8.8	92.0%	2.7	13.5	101.2%	-2.0	37.2	3.1	73.3%
8月	9.1	97.0%	0.5	11.3	95.3%	-1.7	35.5	3.0	73.6%
9月	6.5	91.0%	2.7	11.7	101.6%	-2.5	33.0	2.8	74.8%
10月	8.3	100.5%	1.3	12.0	99.0%	-2.4	30.6	2.6	76.1%
11月	9.0	99.6%	2.6	10.9	96.7%	0.6	31.2	2.6	82.1%
12月	13.4	99.0%	0.0	11.4	101.8%	1.9	33.2	2.8	82.3%
1月	12.4	101.8%	0.0	10.1	96.3%	2.3	35.5	3.0	84.5%
2月	10.0	105.8%	0.0	10.3	98.6%	-0.3	35.1	2.9	85.8%
3月	12.9	102.2%	0.0	12.6	94.3%	0.3	35.5	3.0	88.1%
第1四半期	31.3	83.2%	3.1	35.5	95.2%	-1.1	39.2	3.3	73.9%
第2四半期	24.4	93.5%	5.9	36.5	99.4%	-6.1	33.0	2.8	74.8%
第3四半期	30.6	99.6%	3.9	34.3	99.1%	0.1	33.2	2.8	82.3%
第4四半期	35.4	103.0%	0.0	33.0	96.2%	2.3	35.5	3.0	88.1%
上期	55.7	87.4%	9.0	72.0	97.3%	-7.2	33.0	2.8	74.8%
下期	66.0	101.4%	3.9	67.4	97.7%	2.4	35.5	3.0	88.1%
年度計	121.7	94.5%	12.9	139.4	97.5%	-4.8	35.5	3.0	88.1%

◆追加輸入分(9/26公表、10千t)については、第4四半期中に売り渡される予定であるが、月別の数量が見込めないため、上記の表には含まない。

年度計	121.7	94.5%	22.9	139.4	97.5%	5.3	45.5	3.8	113.1%
-----	-------	-------	------	-------	-------	-----	------	-----	--------

◆上記は、追加輸入数量10千t(9/26公表)が年度内に売り渡された場合の需給

グラフ5：脱脂粉乳の出回り量及び在庫量（四半期毎）

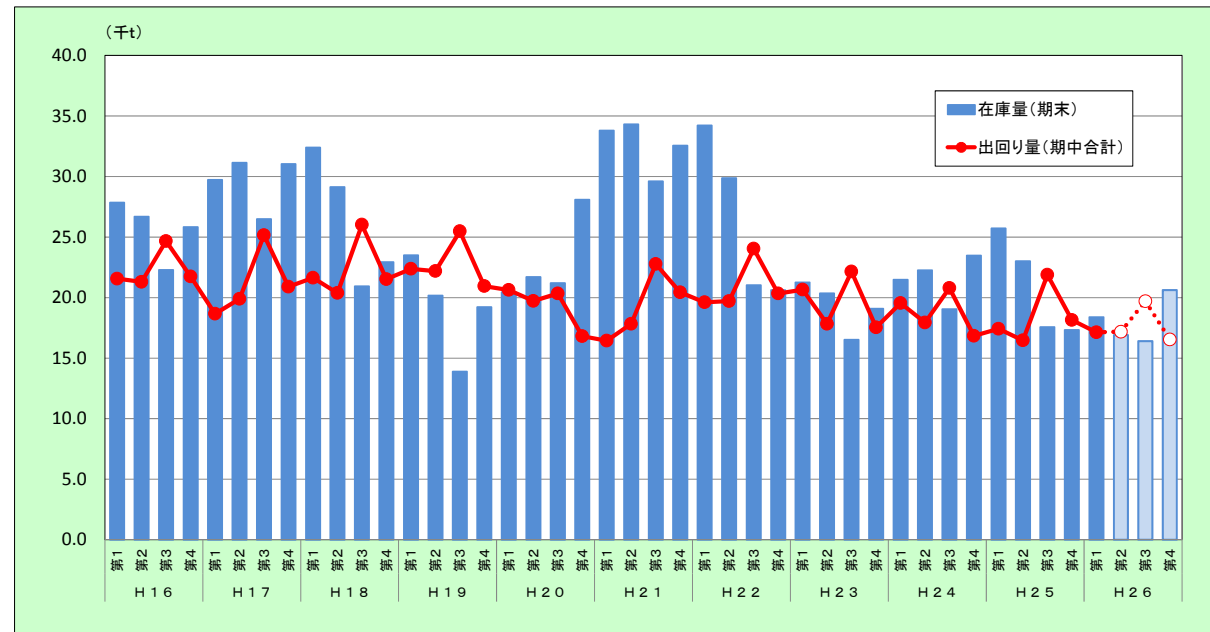


◆26年度第4四半期の在庫量は、追加輸入分(9/26公表、10千t)が、第4四半期中に売り渡されることを見込んだもの

表6：平成26年度のバター需給（見通し） (千トン)

	生産量		輸入 売渡し B	出回り量		過不足 A+B-C	月末在庫量		
	A	前年比		C	前年比		月数	前年比	
4月	6.3	90.0%	0.0	6.4	104.4%	-0.1	17.2	2.8	70.8%
5月	5.7	82.4%	0.3	5.3	96.3%	0.7	18.0	2.9	69.6%
6月	4.9	85.9%	1.0	5.4	93.8%	0.4	18.4	3.0	71.5%
7月	4.7	92.5%	0.4	6.4	110.6%	-1.3	17.1	2.8	68.4%
8月	4.7	91.6%	0.7	5.8	103.1%	-0.5	16.6	2.7	67.9%
9月	3.2	91.0%	2.0	4.9	98.5%	0.3	16.9	2.7	73.5%
10月	3.9	100.5%	1.6	5.9	107.4%	-0.4	16.5	2.7	77.0%
11月	4.2	99.6%	4.1	6.1	91.2%	2.2	18.7	3.0	96.4%
12月	5.4	99.0%		7.7	79.6%	-2.3	16.4	2.7	93.4%
1月	6.6	101.8%		4.3	77.6%	2.3	18.7	3.0	97.6%
2月	5.1	105.8%		5.4	95.1%	-0.3	18.3	3.0	100.5%
3月	6.1	102.2%		6.8	98.9%	-0.7	17.6	2.9	101.7%
第1四半期	16.9	86.1%	1.2	17.1	98.3%	1.1	18.4	3.0	71.5%
第2四半期	12.6	91.8%	3.1	17.2	104.3%	-1.5	16.9	2.7	73.5%
第3四半期	13.6	99.6%	5.7	19.7	90.1%	-0.5	16.4	2.7	93.4%
第4四半期	17.8	103.0%		16.5	91.2%	1.2	17.6	2.9	101.7%
上期	29.6	88.4%	4.3	34.3	101.2%	-0.4	16.9	2.7	73.5%
下期	31.3	101.5%	5.7	36.3	90.6%	0.7	17.6	2.9	101.7%
年度計	60.9	94.7%	10.0	70.6	95.5%	0.3	17.6	2.9	101.7%
◆追加輸入分（9/26公表、3千t）については、第4四半期中に売り渡される予定であるが、月別の数量が見込めないため、上記の表には含まない。									
年度計	60.9	94.7%	13.0	70.6	95.5%	3.3	20.6	3.3	119.1%
◆上記は、追加輸入数量3千t（9/26公表）が年度内に売り渡された場合の需給									

グラフ6：バターの出回り量及び在庫量（四半期毎）



◆26年度第4四半期の在庫量は、追加輸入分(9/26公表、3千t)が、第4四半期に売り渡されることを見込んだもの

【特定乳製品（脱脂粉乳・バター）需給の見通し】

脱脂粉乳については、生産量は上期55.7千t（前年比87.4%）、下期66.0千t（同101.4%）、年度計121.7千t（同94.5%）と見込まれる。今後、年度末にかけて、追加輸入分数量として10千tが売り渡される予定となっており、その結果、26年度末における在庫量は45.5千t（前年度同期比113.1%）と見込まれる。

バターについては、生産量は上期29.6千t（前年比88.4%）、下期31.3千t（同101.5%）、年度計60.9千t（同94.7%）と見込まれる。今後、年度末にかけて、追加輸入分数量として3千tが売り渡される予定となっており、その結果、26年度末における在庫量は20.6千t（前年度同期比119.1%）と見込まれる。

6. 当面する課題と対応について

(1) 生乳生産確保の取組み

生乳生産については、現在、減少傾向で推移しているが、今夏は、都府県の気温が平年以下となり牛体疲労の軽減が見込まれること、北海道においても比較的品質の良い自給飼料が給与され始めたこと、さらに、生産現場においては、国の施策の活用が進むとともに、生産者組織による増産対策も重層的に推進されるなどの努力が続けられていることから、このような対策の効果も今後見込まれているところ。

一方、直近の乳用牛への黒毛和種の交配状況が全国で33.6%（26年4～6月）とかなり高い水準になっている。酪農経営の生産コストが高止まりする中、経営改善を図る上で副産物収入は重要ではあるものの、将来にわたり酪農生産基盤を維持・拡大していくためには、雌雄判別精液などの利用を積極的に進めるなど、中長期的な視点から乳用牛資源の計画的な確保に努めていくことが何よりも重要である。

(2) 生乳需給の変化への対応

生乳供給量及び処理量がともに前年を下回ると見込まれるため、学乳休止期における都府県の特定乳製品向処理量は、前年度とほぼ同水準になるものと見込まれる。しかし、生乳供給量並びに牛乳類需要量が本予測を超えて変動した場合においては、一時的な過剰或いは不足といった需給の急変も想定される。

特に、最近の経済環境下においては、需給の急変に対応した輸送力や労働力の弾力的な確保が難しくなっていることから、酪農乳業関係者は日々の需給動向等の情報共有化と的確な需給調整に努める必要がある。

(3) 牛乳乳製品の安定供給への取組み

飲用牛乳の需要については、本年7～8月は、天候不順や需給逼迫の影響などにより一時的に減少幅が拡大したものの、近年は酪農乳業関係者の消費拡大や販売努力などによりその減少幅が縮小しつつある。業界関係者においては、飲用牛乳の需要拡大に引き続き積極的に努めていくことが重要である。

乳製品に関しては、特定乳製品在庫が段階的な減少基調にあったことから、本年5月に国による脱脂粉乳のカレント輸入並びにバターの追加輸入が実施され、さらに9月には今後の乳製品の安定的な供給を確保するため、脱脂粉乳10千トン、バター3千トンの追加輸入が発表されたところ。

酪農乳業関係者においては、これら国の追加輸入の措置を踏まえ、国産乳製品の需要が輸入品や調製品にシフトすることがないよう、業界一体となって乳製品の安定供給に努めるとともに、併せて、ユーザーの国産乳製品に対する理解を求めめるための取組みを鋭意進めることが肝要である。